

# アグロ・プエルタ

調査団体名	: アグロ・プエルタ	団体代表者名	: 藤本浩幸
設立年	: 2012(平成24)年	対応してくれた人の名前	: 藤本浩幸
団体URL	: <a href="http://agropuerya.boo-log.com">http://agropuerya.boo-log.com</a>	調査員	: 高橋伸夫、眞柄明洋
活動拠点	: 豊田市全域	レポート作成者	: 眞柄明洋
取材日	: 2014年11月25日		

## 活動内容

農業サークル「アグロ・プエルタ」のメンバーは、普段は別に仕事を持って活動しています。農をツールに、食や暮らしのあり方を考えるきっかけをつくり、持続可能な自立した地域社会の創造に寄与することを目的に、現在は20代から30代の会員等(親と子を対象として)にフェイスブックを利用して、農に係わるイベントを豊田市市内で年間を通じて定期的に企画・案内し、○農と食をテーマとした交流・対話の場づくり、○農と食のあり方(安全な食とその確保)を題材にした問題提起、解決策の模索及びその実践を行っています。

## キャッチフレーズ

アグロ・プエルタは、農や自然を楽しみながら、食や暮らしのあり方を見つめなおすきっかけになる場があったらいいな—という思いから生まれた団体です。BBQや野菜作りをとおして、とにかくみんなで笑顔で楽しむ。

## 会のモットー(何を大切にしているか)

子供達が畑(自然)の中で遊んでいないので「虫がきらい」などの問題に対して順応性を高めるために、昔のように畑や田んぼを使って多いに遊んでもらい、そこで収穫した安全な野菜などを味わって欲しい。

## 設立から現在に至るまで変化したこと

野菜づくりに興味があり、無農薬の奈良県の農場で研修して民間資格を取得して、仲間をつのりこの活動に入った。豊田地域の人や農業に係わる団体の方と繋がりができるなか、益々農業にはまっています。

## 連携している団体・専門家・自治体など

千年委員会、スローライフセンター、豊田東高校、矢作川研究所など。

## 山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動(例:小仕事づくり、山村・森林資源活用など)

活動の一例として、年間を通じた米づくりの「こめっこクラブ」を毎年行い、6月の親子での田植えにはじまり、草取り、稲刈り、11月の収穫祭まで行い、その苦労や楽しさ、収穫の喜びを体験することや、豊田市旭地区の農園とタイアップしたイベントも行っていきます。

## 現在直面している課題

今まで20代～30代の親子を対象にしてきましたが、より地域の皆様と連携するために、幅広い層の参加を頂くことが必要と考えており、そのやり方を模索しています。

## 今後やってみたいこと

畑で育った野菜に触れ合うことを目的として、畑の近隣の幼稚園やこども園の園児と、会員メンバーが育てた「さつまいも」の「いも掘り体験」やそれを食べる「いも掘り大会」を行ってみたい。

## 今後の活動について

矢作川流域圏懇談会に関係する団体の方から、活動についての助言等を頂いている。  
また、当会のブレーンに、豊田市以外の学識者や行政に精通した人もいるので、これらのメンバーと議論しながら活動の向上に努めています。

## チームオリジナルの質問

<質問内容> 夏場のイベントはどのようなことを行っていますか。  
<答え> 豊田市の花火大会の日に、子供たちに畑を開放し、日中は野菜の収穫等を行ってもらい、その後参加者でBBQをしながら花火を見学する企画を行っています。

## チームオリジナルの質問

<質問内容> 現在の活動対象が若い親子の方ようですが、今後のどのように？  
<答え> 野菜を育てている畑の横には、遊歩道があり、近所のお年寄りのなかにはこの畑やイベントに興味を持っている方もあります。お年寄りとその孫(子供)というような方も参加して頂ける企画ができないか考えています。

## その他、伝えたいこと

サークル名の「アグロ・プエルタ」は、スペイン語からの造語で「農への」+「扉」=「農への扉」という意味です。  
名付け親は、このサークルを立ち上げる時に係わって頂いた、矢作川研究所の洲崎さんです。

また、活動している畑には休憩する場所(東屋等)がありません。  
このため、山の地域の方から間伐材を提供頂き、会員で東屋等を建てることを企画しています。ご協力をお願いします。

## 写真



右が代表の藤本さん